

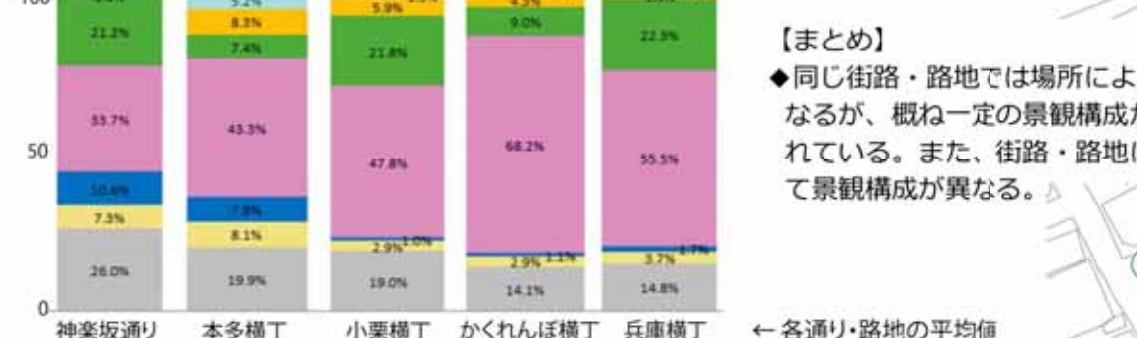
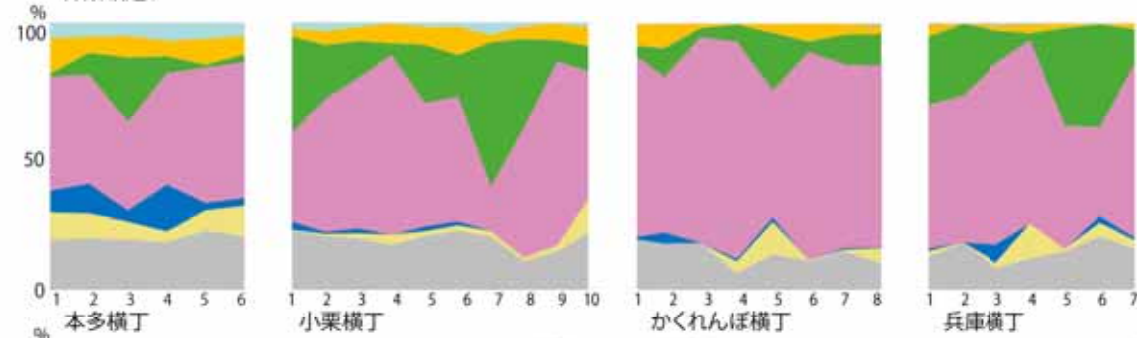
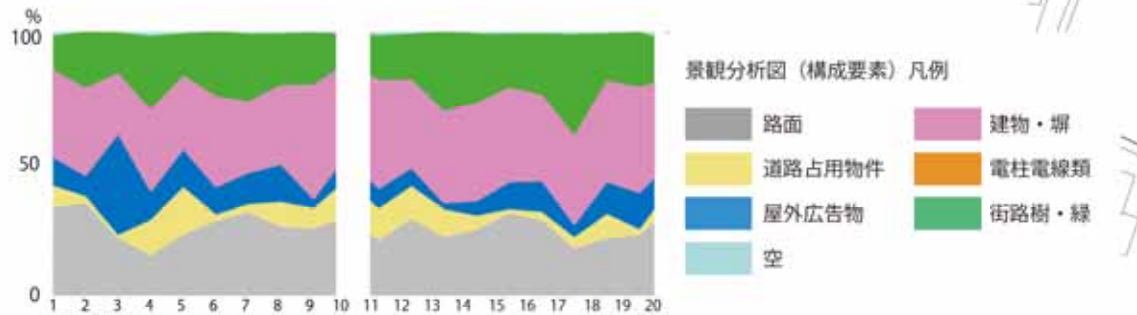
・静的景観とは、人や車などの動くもの、提灯など短期の季節的なものを除いた街並み景観です。  
 ・地区内の主な街路・路地における景観構成要素を分析し、比較しました。  
 ・図中の○数字の箇所、方向で撮影した写真を用いて景観分析を行いました。  
 ・歩行者にとっての景観が大切であることから、分析に用いる写真は歩行者の視野に近似したものとして、レンズ焦点距離50mm、地上1.5m、歩行正面方向で撮影しました。  
 ・主な景観要素を ①路面 ②建物 ③道路占用物件(街路灯など) ④樹木・緑 ⑤屋外広告物 ⑥電柱電線類 ⑦空 に分け、上記の近似視野(写真の画面)における構成比を計測しました。なお「人・車・季節の飾り物など」についてはここでは対象外とします。  
 (裏面の「動的景観」で扱います)。

※すべての写真撮影  
2018年7月7日(土)  
午後2-4時



### 【静的景観構成の比率】

- ・5本の街路・路地における計測箇所から主なものを選び、写真と分析図を掲げました。
- ・各街路・路地の、調査箇所ごとの静的景観の構成比をグラフにしました。





### Q1: 屋外広告物のデザインや設置については...

- まちとしての協調性を重視すべき
- 個性よりも協調性を尊重すべき
- どちらともいえない
- 個性を尊重すべきだが最低限の規制も必要
- 各店舗の個性を重視すべきで規制は不要

回答数 人

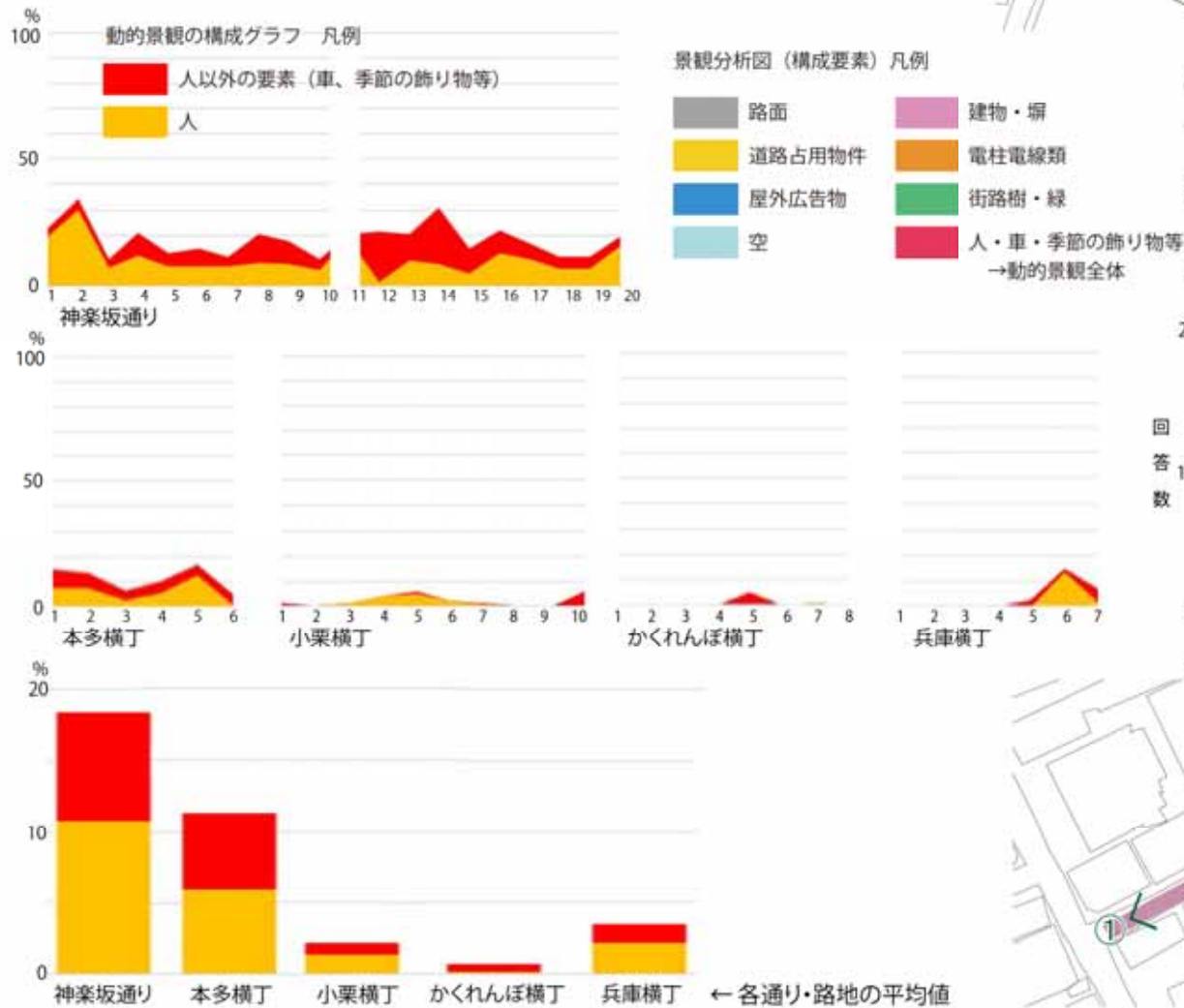


・動的景観とは、人や車などの動くもの、提灯など短期の季節的なものを含めた街並み景観です。  
 ・景観分析の方法、箇所は静的景観と同じです（裏面参照）。  
 ・神楽坂の住民、商業者、学生など33名に街並み景観についてのアンケートを2018年11月に実施しました。質問はQ1～Q3のとおり。  
 ・動的景観要素は、街路・路地ごとに比率が異なります。動的景観の占める比率は、平均で、神楽坂通りは約18%、本多横丁は約11%でした。路地における動的景観要素は全体的に低く、2～3%程度でした。動的景観の半分以上は歩行者でした。

※すべての写真撮影  
2018年7月7日(土)  
午後2-4時

### 【動的景観要素の比率】

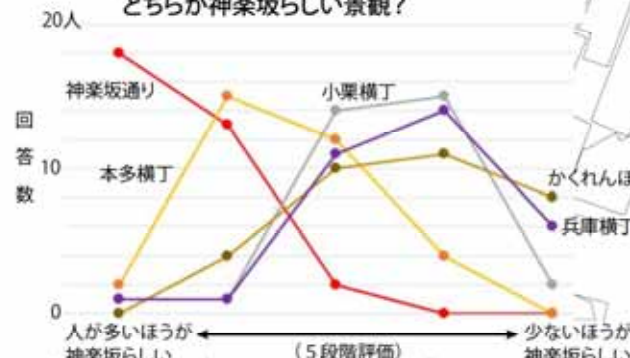
- ・5本の街路・路地における計測箇所から主なものを選び、分析図を掲げました。
- ・各街路・路地の、調査箇所ごとの動的景観の構成比をグラフにしました。



### Q2: 神楽坂の景観で改善が必要なことは...



### Q3: 人の数が多いのと少ないのとでは、どちらが神楽坂らしい景観?



◆「神楽坂らしい」景観と人通りの多さには関係性がある。神楽坂通り、本多横丁では人通りが多いほうが神楽坂らしく、路地では人通りが少ないほうが神楽坂らしいとする回答が多かった。動的要素が景観評価に影響を与えている。

